

1-4

Hybrid EFTRの臨床成績とPure EFTRの開発：Kagawa NOTES projectでの開発

香川大学医学部 消化器・神経内科学¹⁾

愛媛労災病院 外科²⁾

森 宏仁^{1), 2)}、小原 英幹¹⁾、西山 典子¹⁾、藤原 新太郎¹⁾、谷内田 達夫¹⁾、

綾木 麻季¹⁾、正木 勉¹⁾

【目的】胃GISTに対する胃局所切除は腹腔鏡下胃局所切除、LECS、hybrid NOTESなどがあり当院では系統だった術式(清潔操作・感染・術式・倫理的側面)の確立を検討している。研究開発としてpure EFTRを安全に施行するための信頼性のある全層縫合器のin vitro, in vivoでの研究・開発について検討する。

【方法】2009年から2012年までにhybrid EFTRを施行した胃GIST患者17例を解析・検討した。研究開発ではブタ切除胃を用いて軟性内視鏡用・Mechanical Counter Traction System (MCTS)を用いて胃壁全層切除を施行した30例に軟性内視鏡用・全層縫合器double-arm bar suturing system (DBSS)を用い、40mmの全層切除穿孔創の10針全層縫合を外科手縫い単結節縫合群10例、over the scope clip (OTSC)群10例とDBSS群10例の3群で施行しleak testによる縫合力を比較検討した。これらの軟性内視鏡デバイスを用いて、ビーグル犬でpure EFTRを施行した。

【結果】Hybrid NOTES 17例で開腹移行例、合併症や再発は認められなかった。Pure EFTRのLeak testによる耐圧能は3群間に有意差を認めた ($p=0.002$)が外科手縫いとDBSSでは有意差を認めなかった ($p=0.542$)。Pure EFTRを施行した2頭のビーグル犬は、軟性内視鏡のみで施行され、合併症なく生存している。

【結論】Hybrid NOTES、LECSはさらに進化し、超低侵襲pure EFTRはMCTSを用いた小術野展開による全層切除とDBSSを用いた全層縫合にて動物実験で安全に施行でき臨床導入も可能と思われた。